

第 3 回深川市庁舎整備検討会議の内容等について（主な発言の要旨）

令和元年 8 月 28 日（水）開催

【市民アンケート調査の結果について】

- ・自由意見の多くが建替えを希望しているように見受けられ、市民の大勢の考え方と理解できる。
- ・建替えの場所について、現在地を含めて市有地を活用するという回答が多く、コスト的な負担があまり掛からないような形で進めていければ良いと考える。
- ・若い世代からは庁舎はまちのシンボルという回答もあり、一緒にシンボルを造り上げることで、将来深川に戻る、あるいは人を呼び込むといった、人材確保やまちの魅力づくりにもつながる。

【基本計画(案)の内容について】

- ・ユニバーサルデザイン等は、様々な物を設置して広いスペースを取れば良いという考えは間違い。費用を掛けなくても便利な製品はたくさんある。皆で議論しながら作り上げることが大切。
- ・ICTは市民交流機能に必要なもので、多目的スペースで観光などの情報発信に使える。
- ・必要な機能を整える一方で、将来に負担を残さないよう建物・設備などは身の丈にあったものを選択するなどバランスよく判断することが重要。
- ・現庁舎の不便な箇所を解決することが大切。全て実現ではなく何が必要かを考えることが重要。
- ・防災拠点としては、屋外に一時避難場所や関係車両の駐車場等として使用できる広いスペースを確保できるかが重要。
- ・旭川医大では玄関前にバス停が設置されており、そうしたことを深川市庁舎でも採用するなどの考えが進めれば、皆が使いやすい庁舎になり、他市の庁舎とも差別化ができる。
- ・地元の木材を極力使うような考え方も必要。
- ・賑わい性を持たせるため、子供たちも利用する「デ・アイ」を繋げるような配置にしてはどうか。

【庁舎建設の可能性がある土地について】

- ・民有地がなく、デ・アイや道の合同庁舎が近くにあることなどから現庁舎の敷地が良い。
- ・旧教育会館を含めるとかなりの広さがあるので、現庁舎の北側に建てた方が良い。
- ・費用面では現在地が良いが、本市のように公共施設が点在していれば用事がない限り市役所には来ない。街中であれば通院の機会に立ち寄ることもできる。そうした考えもあり揺らいでいる。
- ・市民に一番理解が得られるのは、費用が掛からない現在地と思う。ただし、高齢化に伴って街中にある方が多目的な要素を含めた利用が可能になるとも考える。
- ・市民から見ると、候補地のどこをとっても公平性はあり得ないわけで、関心事である費用面を踏まえれば現庁舎の敷地が良いと思う。
- ・メリットデメリットはそれぞれ同じようにあると思うが、コスト面では現庁舎の敷地が良いと思う。
- ・コスト的なことも含め色々な面から考えると現庁舎の敷地がベストと思う。
- ・現庁舎で事務を継続しながら整備を進め、仮庁舎等の二重の経費が掛からないのであれば、経済的なことや時間的なことも含めて考え、慣れ親しんだ現在地が一番良い。
- ・災害対応に備え、屋外に十分なスペースを確保できる現庁舎の敷地が良い。
- ・近隣に保健所や合同庁舎など他の官公署も多く、それらとの連携を考慮すると現在地が良い。
- ・病院やJRに近い街中が良いと思う。コンパクトな街づくりで一番大切なのは、どこを街の中心として考えるかということ。近年の空き家等の課題についても今一度議論した方が良いと考える。
- ・街中にはプラザ深川などバスを待つスペースがある。交通弱者対策として循環バスの運行もなされている。それらのことや時間・予算を含め考えると現在地がベストな選択だと思う。
- ・総合福祉センターやデ・アイ等の扱いについてもセットで示した方が市民は理解しやすい。
- ・土地については、庁舎等の配置計画や周辺施設との連携イメージがあると検討しやすい。

【財政負担額の試算及び公債費の推移について】

- ・整備費用を抑えるため、総合福祉センターやデ・アイ等はすぐに整備しなくても良いと考える。